

◎シリーズ 長岡京歴史散歩

107

近世勝龍寺城の遺構

↳ JR長岡京駅東口の調査から

JR長岡京駅周辺には細川藤孝やガラシヤで有名な勝龍寺城とは別の、もう一つの勝龍寺城がありました。寛永10（1633）年に当時廃城であった勝龍寺城主となった永井直清は、荒れ果てた城の再建をあきらめ、北側にあらたな城を築きました。これが近世の勝龍寺城です。この城には屋敷図が残されていて、発掘調査により次々に実態が明らかになっていきます。最近では絵図に「茶屋口」と記された西側の門が発見されています。

今回JR長岡京駅東口で行った調査では、本丸のすぐ北側に当たる部分の発掘を行い、二重の柵で囲まれた長方形の区画を検出しました。据えられた柱の規模はこれまで見つかっている中で、本丸内の建物に匹敵するかなり立派なもので、北側には出入口も設けられています。また内部には

旗竿を立てたような深い楕円形の穴もありました。ただ住居らしきものは見つかりません。

さてこれらが一体何の施設なのか。先ほどの絵図を見ると、なぜかそこは大きな長方形の空白となっていて、なぞかそこは大きな長方形の空白と細かく記されているのに、本丸など一部分にだけ何も無いところがあります。本丸の調査では堀や内部の施設が多数発見されており、何も建てられていなかった訳ではないようです。したがってこれは重要な部分のみあえて絵図に記さなかった可能性があります。本丸の北に接していて、大きな面積を占めている点など、今回見つかった施設の重要度はかなり高そうですが、残念なことに遺物が極端に少なく、それを知る為の手掛かりは得られませんでした。現段階では謎の施設なのです。



▲近世勝龍寺城の柵列（北東から）



▲近世勝龍寺城の絵図(部分)と調査地点